

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

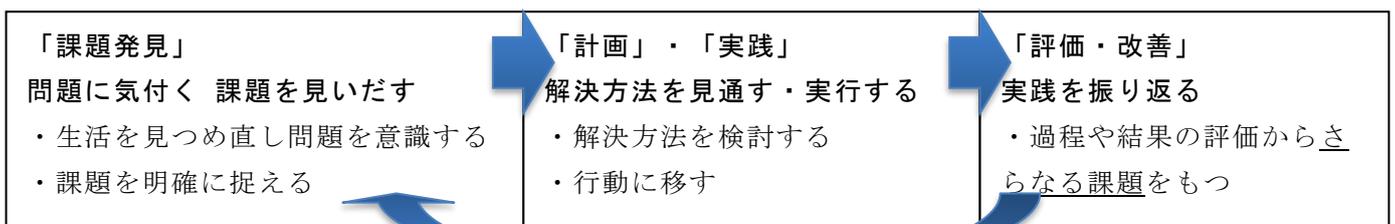
家庭科の本質

家庭科は、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する教科である。小学校における家庭科は、家族の一員として家庭生活を自律的に営ませようとするものである。

家庭科の目標及び育みたい探究力と省察性

| | |
|---------|--|
| 家庭科の目標 | 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 |
| 育みたい探究力 | 生活を見つめ、生活の中から課題を見出し、それを解決するための科学的な知識・技能を習得し、解決方法を立案・検討し、実践していく力 |
| 育みたい省察性 | 実践した結果を評価し、振り返り、改善策を検討できる力 |

家庭科における探究的な学びのイメージ



探究力 ①課題設定→②情報収集→③整理・分析→④まとめ・表現 を繰り返し進める

省察性（探究の質を高める 探究を支える）

探究力と省察性を育む指導

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象が学習対象である家庭科は、日常生活の中から課題を見出し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えた事を表現するなどの探究力と省察性を育む必要がある。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせる契機となる「問い」を授業に設けることで、一人ひとりの学びの前後での変容が分かるようにする。

研究の評価

研究内容で取り組んだ授業実践の成果と課題を明らかにするために、子どもたちが、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、そこから見出した課題を解決していったかを捉える必要がある。そのために、子どもの思考と実践を用いて評価を行う。子どもの思考は、ノートに記した言葉・授業中に発言した言葉で評価する。子どもの実践は、授業中・家庭での行動をもとに評価する。

また、体験的活動の内容に応じて、グループでの活動、ペアでの活動を取り入れ、自己評価だけでなく相互評価を取り入れる。互いに見合うことにより、自分だけでなく仲間のことも再発見でき、そのことが自己の変容につながるからだ。また、保護者による評価も子どもの家庭での変容をみる手立てとなり得るだろう。

子どもが成長を実感し、生活への実践に意欲をもたせるための評価を積み重ねていく。